

平成30年度 第1回 豊田市地域経営懇話会 会議録

【日時】平成30年11月6日(火) 午後2時～午後3時30分

【場所】豊田市役所南庁舎5階 南52会議室

【出席者】(委員) 板倉 武彦 (豊田市区長会)
杉本 はるみ (豊田市ボランティア連絡協議会)
田端 稔 (豊田商工会議所) «副会長»
津村 美紀 (公募委員)
寺田 安孝 (あいち豊田農業協同組合)
西原 香保里 (愛知みずほ短期大学教授)
花村 善照 (豊田市高齢者クラブ連合会)
三島 利彦 (旭地域会議)
三崎 祐子 (豊田市ファミリー・サービス・クラブ)
湊 裕 (連合愛知 豊田地域協議会)
村野 政章 (公募委員)
山崎 丈夫 (元・愛知学泉大学教授) «会長»
山田 洋介 (豊田青年会議所)

(計13人)

【欠席者】(委員) 大久保 努 (豊田市PTA連絡協議会)
胡桃沢 幸希 (学生によるまちづくりの会)
長岡 美穂 (TIAボランティア日本文化紹介グループ)
村林 聖子 (愛知学泉大学准教授)

【事務局】 藤本 聡 (総務部副部長)
塚田 良 (総務部行政改革推進課 課長)
柘植 孝悦 (総務部行政改革推進課 主幹)
先野濱 佳子 (総務部行政改革推進課 主査)

【次第】 1 開会
2 会長あいさつ
3 新委員の紹介
4 議事
(1) 豊田市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略
実績評価について【報告】
(2) 第2次地域経営戦略プラン取組実績について【報告】
5 閉会

(文責は事務局。訂正することがあります。)

【会長あいさつ】

- ・本日は報告事項が2つありますので、しっかり審議していただきたいと思います。よろしくをお願いします。

【新委員の紹介】

- ・三島委員による自己紹介
- ・板倉委員による自己紹介

【議事（1）】豊田市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略実績評価
について（報告）

○委員

- ・施策番号[22]のバス（基幹バス、地域バス及び民間バス）の平均乗車人数が増えたとのことですが、市からの補助額も減っているのでしょうか。
- ・基本目標③の子どもを産み育てる希望の実現に関して、施設保育の方については待機児童ゼロになっていて保育が充実していると思いますが、家庭保育の方についてはまだ光が当たっていないように感じます。制度としては、保育園の入園要件に予定月と前後2か月を含めた5か月については、申立書の提出により預かり保育をしてもらえる制度がありますが、産後2か月ではまだ赤ちゃんとお母さんとのコミュニケーションもうまく取れず、不安定であるので産後うつなども出てきます。核家族で育てている方が多い中で、不安に思われている方がいるので、せめて産後3か月に延長されると母子ともに安定するのではないかと思いますので、ぜひ延ばしていただきたいです。待機児童ゼロが実現できたということなので、次は家庭保育の方に目を向けてほしいと思います。

○説明者

- ・基幹バスについては、乗車人数が非常に増えていますが、地域バスについては収支に変わりがなく、乗車人数の増加に伴い収支が改善して補助額が減っているということもありません。そのため、以前と変わらず公費を投入しながら地域のインフラとして支えています。
- ・保育園の入園要件を産後2か月から3か月に延長するという意見については、担当部署に伝えます。

○委員

- ・地域バスについては、合併の時に3年ごとに見直しを行っていくということになっていたと思います。委託費に対して収入の目標値が1割くらいでいいという前提で成り立っています。他自治体では、市の負担が7割を超えたら廃止するという所が多いと思いますが、豊田市は、今後もこの目標値の設定が乗車人数のみのままでいいのでしょうか。

○説明者

- ・地域バスについては、豊田市は山間部を抱えており、鉄道や基幹バスだけでは公共交通

がくまなく整えられないため、収入面のみで考えられない部分があります。新しい取組としては、採算の悪い地域では、地域バスではなくタクシー利用に転換する方法を試行的に行っており、今後、他の地域にも広げていく予定です。

○委員

・待機児童がゼロになっている状況は豊田市の功績として素晴らしいと思いますが、家庭にいまするお母さんたちが安心して働きに出られるかであるとか、家にいる場合でも安心して暮らして子どもと向き合い、次に働くまでの準備期間になるといいと思います。家庭に入っている方にとっては孤独によりうつになってしまう等のシビアな状況もあります。こども園や一時保育に子どもを預けたいけれど預かってもらえない方も現実としていますし、他市では、月に2回は預かってもらえるという施策を行っている所もありますので、豊田市でも家庭にいまするお母さん向けのツールがあると、子どもと向き合うことやリフレッシュできる機会となりいいのではないのでしょうか。

○説明者

・いただいた意見を担当部署に伝えます。

○委員

・[24]公共施設の適切な管理に関して、指定管理関係のことかと思うのですが、個別施設計画の策定を進めているとあります。図書館は指定管理となって2年目となり、評価をされて指定管理評価シートが出たのですが、他の指定管理施設と同じ項目でとても簡易なものであり、詳細な評価状況が分かりませんでした。他の市町村だと図書館は特別な評価シートにより評価されている所が多いです。個別施設計画が策定されると、これからは個別の評価が行われるということになるのでしょうか。

○説明者

・資料の説明不足であったかもしれませんが、個別施設計画は、建物そのものの安全な管理という視点で作られています。例えば、交流館の場合ですと、一般的に市の建物は57年使用することになりますが、それまでの期間中に屋根の防水処理、壁のひび割れ補修、空調設備、電気設備等のメンテナンスを適切な時期に行う必要がありますので、この時期にこれを直すといった施設管理の計画を個別施設計画と言っております。運営の部分ではなく、市民の安全安心という面での計画として挙げさせてもらっています。

○事務局

・個別施設計画はハード面の管理の計画となっており、管理のソフト面については、個別の計画はありませんが、指定管理者選定委員会で指定管理者を更新する際に検討を行っています。図書館については、数年前に指定管理者制度を利用した方がいいと判断し、切替えを行いました。管理運営評価については、図書館以外にもいろいろな施設がありますので標準的なフォーマットで評価を行い、他の施設との比較を行えるようにしています。図書館のような特殊な目的を持つ施設については、図書館協議会という審議会がありますので、その中で専門的な見方で評価を行ってほしいと思います。

【議事（2）】第2次地域経営戦略プラン取組実績について（報告）

○委員

- ・SDGsの担当部署はどこですか。

○説明者

- ・企画政策部未来都市推進課です。

○委員

- ・戦略プランの4つの柱立ての2に豊田市役所品質の確立とあり、毎回書かれています。制度を作って前に進んだ成果があればこれは書かれないのではないかと思うので、職員として当たり前のこととして、4つの項目の1つではなくてもいいのではないのでしょうか。
- ・資料2-1の1共働の推進の016福祉センター「交流コーナー」の機能の充実に関して、確かに場所の利用は増えているので活性化していると思いますが、「交流コーナー」という名前として何かを企画して交流をしているということはないので、機能が充実しているということにはならないのではないかと思います。
- ・024ボランティアとの共働による図書館サービスの充実に関して、指定管理になり企業が行っているのでボランティアは少し引き気味になっているのですが、何が充実したのか不思議に思っています。
- ・戦略方針1-4民間活力の積極的活用に関して、民間のノウハウを活用する必要性がよくわからないところもあり、057指定管理者制度に係るモニタリング評価の強化とありますが、どのように強化をしたのか、一行で表すのは難しいと思いますが、裏付けがちゃんとあるのか疑問に思っています。

○説明者

- ・豊田市役所品質については、我々も豊田市役所品質なるものは何なのかをいつも考えますが、普遍的なものなのか時代と共に変わっていくものなのかと悩みながらも品質というものを確立させて、その品質を保つために仕事を丁寧に行っているという目的で入っています。次期戦略プランの作成作業の中で、いただいた御意見を参考にさせていただきたいと思います。
- ・施設の機能充実については、市民の皆様から様々な御意見をいただき、行政として充実させるための見直しを行っておりますが、その見直し結果に対して使い勝手が良くなった、あるいは悪くなったという評価についてもいろいろな見方があるのではないかと考えています。全体の意見を踏まえて対応していきたいと思います。
- ・指定管理者制度のモニタリング評価の強化については、運営評価の内容設計を見直したり、頻度を見直したりしています。指定管理を始めた当初は5年に1回まとめて評価を行っていましたが、それでは良くて悪くても、最終の評価になってしまうので、毎年度評価するように変更し、指定管理の期間中であっても良くなかった部分は次の年度

に改善できるように、フィードバックできる仕組みに変えている事を強化とっています。

○委員

- ・地域経営戦略プランを2年延長して第8次総合計画とタイミングをそろえることは以前の地域経営懇話会でも発言した内容であり、いいと思います。ただし、4年スパンで見直しを図っていくことになると、次の構想を練るスタートのタイミングとしてはボリュームによってマネジメント系の話と総合計画自体の話の時期については少しずれることがあるかもしれません。次の世代のことを考えて、企画する所から実践して評価するところまで、両面でPDCAを回していただけないのでしょうか。

○説明者

- ・8総は近い将来と遠い将来と目指す姿を描いて、その中で重点を決めていますが、今までは戦略プランが8総の目指す姿と整合できていない部分がありました。まずは目指す姿を8総と共有していくという目的で、具体的な行動計画を、短期的なものとして長期的にしっかり準備していくものがありますが、スタート時期を揃えていきたいです。

○委員

- ・「まち・ひと・しごと総合戦略」を国も含めて行っていく中で、一つの大きなキーワードとしては人口減少、少子高齢化の問題がありますが、豊田市の抱えている課題の一つとして、家族形成期の世代の流出が多いというものがあったと思います。若い人の転入はあるのですが、家族を作りマイホームを購入して地域に根付く世代が他の市町村に流出してしまうという課題があったと思います。そういう人たちの動向がどうなっているのか、KPIに反映させて、どういう対策を行った結果、そこがどうなったのかという部分が見えにくいのではないのでしょうか。

○説明者

- ・東京一極集中という話がある中で、統計を見てみると、豊田市は東京にとられておらずむしろ他の地域から人を吸収するような地域のようにです。一方で東京ではないけれども他の地域に人をとられているという少し変わった地域であります。まさに家庭を構える世代が近隣に出て行ってしまっているという状況となっています。それをどう解決していくかは、後期実践計画等の課題となると思います。

○委員

- ・家族形成期の世代の流出について、原因の分析はできているのでしょうか。

○説明者

- ・豊田市は産業が充実しておりますし、富裕層の割合が高く、人を集める力は強いのではないかと思います。しかし、特定の世代が流出してしまっています。
- ・一つの理由として、豊田市は近隣よりも地価が高いため、宅地を買ってマイホームを作るとか、マンション購入を考えた時に豊田市内で買うことができず、近隣に流出していることがあると思います。行政の力では地価を下げることは難しいですが、取組として

は、できるだけ安価に宅地を供給するための区画整理を進めること、公用地の中から宅地供給できる土地を捻出すること、民間の力を借りながら宅地供給をしていくこと等を行っています。定住促進課もでき、豊田市に定住してもらうための施策を打ちつつあるという状況です。

○委員

- ・今言われたとおり、ターゲットとしている若い世代にとっては地価が高いということが実体だと思います。また、近隣市に比べて、JRや名鉄などの線路等の交通利便性が必ずしも良くない土地なのに割高であるといった豊田市特有の問題もあるかと思います。行政として地価を下げることは難しいでしょうから、違う視点での施策として、子育て世代への補助を出すであるとか、定住促進課の施策とも絡めて、多少割高でもここに住んだ方がいろいろな面でメリットがあると思われるようなものを期待しています。

○説明者

- ・すぐに手を打つべきこととじっくり取り組まなければいけないことがあると思いますので、両面からのアプローチで考えていきたいと思っています。

○委員

- ・土地の問題としては、近隣自治体に流れているのは確実な話です。まず、空家をどうするかを決めて、集合住宅にするなどの検討をしてはどうでしょうか。コンパクトシティとして、都心に高層マンションを作ることはいいのですが、50年後を見据えると建て替えがとて大変なので、山間部の開拓も考えてはどうでしょうか。
- ・鉄道の問題としては、環状線などができれば山間部にも人が住むようになるので、人口は減らないのではないのでしょうか。長期展望をもって検討していただきたいと思います。豊田市は名古屋からのアクセスが悪いことが住んでもらえない理由として考えられ、特に、山間部に帰るのは時間がかかってしまう町なので、対策を打つべきではないかと思っています。

○説明者

- ・長期展望は必要であると考えています。単純に人口が増える・減る、高齢者が増える、子どもが減るということだけでなく、5年後10年後、年代や男性女性等の属性がどうなるかという細かい分析をしながら、定住施策を考えていく必要があるかと思っています。定住については一カ所に急速に増やすのではなく、住むところを少しずつ増やしていくとか、コミュニティや学区等がバランスよくずっと続いていくような展望が必要であると思っています。長期展望と戦略を決めながら投資を行っていき、人が増えれば住民税や固定資産税も増えますし、産業を誘致すれば雇用を生み出し、事業所税等も増えることとなりますので、今使えるお金があるとすれば先行投資をしていく必要があると思っています。いただいた意見を担当部署へ伝えます。

○委員

- ・トヨタ自動車の業績が今後もいいとは限らないので、税収が減った場合の一部を補てん

してもらえくらいの企業へ誘致ができるといいのではないのでしょうか。農山村地域の定住を促進するために、農山村でも働けるような事業展開を進めていき、しかも、高齢者が働けるような職場を設けることが大切だと思います。お金を出すだけでなく、こういうことをやったらどうかというソフトを与えて、少し資金援助をし、後の運営は自分たちで行ってもらえばいいと思います。どんぐりの湯への集客の問題を考えた場合、老人クラブを回るなどの手を打つことで集客ができると思います。豊田市は魅力ある町なので、いろいろ考えてほしいです。

- ・ 林業を発展させるためには、林道の整備が必要です。現状は木を切ってもそれを運ぶ林道がないので持ち出せません。

○委員

- ・ 人員の問題で、認識したいのは、30年ほど前に若者と対話した時に、会社を休んでも遊びに行く場所がないから休まない、といった発想でした。今の現実の問題として、私の周りの人の子どもはほとんど市外に出て行っています。人が増えたと感じるのは外国人で、日本人が増えている感じはしません。人口が増えているのは、外国人も含んで増えているということでしょうか。もう一つの要因としては、トヨタ自動車が人員を多くとれば増えるが、人員を減らすとか、異動があれば減る可能性があります。人員が動く経緯を明確にする必要があると思います。例えば市役所職員の若者に休みの日はどこに出かけるかを聞いてみた時に、名古屋に行くと言えらるるのであれば、名古屋に近い地域に家を考えることになると思います。若者が車離れをしている現実もあるので、車でしか移動できない地域は選ばなくなるのではないのでしょうか。現状認識があまり聞こえてきませんが、私は人口が減っているのではないかと感じています。若い人達が残る町を若い人達でどうあるべきか論じたときに、それを予算化して対策できるかが問題になります。モノの動き等を深刻にいろいろ考えてほしいです。人口が減ると、お金も入ってこなくなってしまう。大学の移動も始まっているので、緊急事態と考えて取り組む必要があるのではないのでしょうか。
- ・ 外国人を呼ぼうとするのであれば、駅前のサービスが悪すぎると思います。外国人が豊田市を訪れて観光地に行こうと思っても、交通が大変不便です。車や観光バスで来る必要があるとなると、外国人がちょっと寄って観光していくということができません。課題は多いですが、次回の検討項目としていただきたいです。
- ・ 名古屋から、小原の四季桜や足助の香嵐溪へ行きたい時に、公共交通機関で行くのはとても困難であるという話はよく耳にします。

○説明者

- ・ 人口は社会減です。入ってくる人はいるのですが、それよりも近隣に出て行ってしまいう人の方が多い状況です。出て行っている年齢層等を詳しく見ていくと、特定の年代が出て行ってしまっている現実があるかもしれません。これから後期実践計画を作っていく段階になりますので、その中で、人口戦略について、委員の方からいただいた意見を吸収して作成していくように担当部局と相談をしていきます。

○委員

- ・平成30年度から追加する行動計画「市民サービスの質的向上」について、支所・出張所の窓口サービスの格差の解消とありますが、職員配置の問題のことでしょうか。

○説明者

- ・窓口のサービスというのは、旧市内支所と合併支所では取り扱っている事務が違う部分があり、また、旧市内支所の間でも取扱いが違う部分があるので、できるだけそろえた方がいいということで、簡単な所から解消していこうというものです。合併して10年を経過しており、支所機能のあり方が一つのテーマになってくるかと思います。地域の課題はそれぞれ違いますが、本庁の出先という機能だけでなく、まちづくりの各地域の拠点として、今置いている仕事だけで足りるのかどうかというところは今後の課題であると思います。

○委員

- ・人の流れ、賑わいづくり・魅力づくりについて、期待していますが、博物館建設の話はどこにも出ていません。魅力づくりの項目には載ってこないのでしょうか。

○説明者

- ・いずれは載ってくるかと思いますが、まだ方針決定の部分が議論されている途中でありますので、具体的な計画や戦略に落とし込める熟度ではありません。

○会長

- ・ありがとうございました。それでは、本年度第1回地域経営懇話会の議事は、これにて終了といたします。